

## 福島大学資料研究所活動報告書

所 長 黒沢 高秀

### 研究目的

福島大学で所蔵している研究資料や郷土資料の適正保管や活用を図るとともに、図書資料や各種情報と結びつけ、教育・研究・地域との連携を推進する。

### 研究メンバー

< 研究代表者（研究所長） >

黒沢高秀（共生システム理工学類・教授）

< 研究分担者（プロジェクト研究員） >

菊地芳朗（行政政策学類・教授）

阿部浩一（行政政策学類・教授）

塘 忠顕（共生システム理工学類・教授）

徳竹 剛（行政政策学類・准教授）

< 連携研究者（プロジェクト客員研究員） >

澁澤 尚（人間発達文化学類・教授）

小松賢司（人間発達文化学類・准教授）

笠井博則（共生システム理工学類・准教授）

難波謙二（共生システム理工学類・教授）

鍵和田賢（人間発達文化学類・准教授）

### 研究活動内容

#### 大学貴重資料の整理・活用

経済経営学類と協力して整理を行ってきた福島高等商業学校資料の活用や公開方法について検討・協議をした。

昨年度に続き、戦国大名伊達氏をはじめとする中世福島・東北史の研究で著名な小林清治名誉教授の旧蔵資料の再整理を継続した（図 1）。

福島大学貴重資料保管室植物標本室 FKSE では 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日の間に、のべ 10 名の学外の研究者の訪問利用があった。また、研究者からの 8 件の標本データベースのデータ照会に対応した。また、研究者からの 1 件 11 点の標本貸し出しに対応した。2020 年 7 月の九州豪雨で被災し、水害で浸水被害にあった熊本県人吉市の人吉城歴史館に保管されていた「前原勘次郎植物標本」の修復に国内の博物館・大学等の 48 施設とともに取り組んだ（安田他 2021）。この活動全体は社会の関心と呼び、8 月 5 日と 25 日の NHK の朝の全国ニュースな



図 1 小林清治名誉教授資料の再整理の様子 2020 年 10 月 13 日撮影。できるだけソーシャルディスタンスをとり、扇風機で風通しをした。

どで報じられた。福島大学による活動の様子は大学の定例記者会見で公表し、読売新聞の福島県版で取り上げられた。FKSE で保管されているイワキアブラガヤの標本を用いた黒沢他（2015）、Sato et al. (2018)、Sugita et al. (2020) の研究が 2020 年 5 月 14 日の朝日新聞の科学面トップ記事として取り上げられ、当該標本の写真も掲載された。

ふじのくに地球環境史ミュージアム企画展「県勢標本「静岡発」自然史コレクションから見えるもの」(会期：2021 年 4 月 24 日～11 月 7 日)にフジタイゲキの標本や研究に関する資料を貸し出しするなどの協力を行った。

なお、今年度は主催展示事業、後援事業はなかった。

#### HP による情報発信

HP ( [http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/kurosawa/IUMC\\_Fukushima\\_Univ/fukushima\\_a.c.html](http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/kurosawa/IUMC_Fukushima_Univ/fukushima_a.c.html) ) で本研究所および研究所研究メンバーの活動を紹介するとともに、県内を中心とする貴重資料や関連行事のニュース 9 件などを「お知らせ」欄などに掲載した。

#### 大学貴重資料を活用した研究業績一覧

以下に 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

の間に出版された資料研究所研究メンバーが管理する貴重資料を活用して行われ、資料が出版物内に引用または明記された研究業績の一覧を示す。下線は研究メンバーを示し、\*は研究メンバー以外により執筆された研究業績を示す。

\*Hayakawa, H., Suetsugu, K., Fujimori, S., Shitara, T., Yokoyama, J. & Yukawa, T. 2020. A new peloric form of *Cephalanthera erecta* (Orchidaceae) from Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*: 163–169.

根本秀一・黒沢高秀. 2020. 本州新産のキクバクワガタ (オオバコ科). *植物地理・分類研究* 68: 63–65.

三浦深志・薄葉満・黒沢高秀. 2020. 福島県白河盆地ため池の 2010 年の水生植物相. *福島大学地域創造* 32(1): 79–97.

\*Yamashita, Y., Ogura-Tsujita, Y., Tokuda, M. & Yukawa, T. 2020. Herbarium specimens reveal the history and distribution of seed-feeding fly infestation in native Japanese orchids. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Ser. B*: 119–127.

曲淵詩織・山ノ内崇志・黒沢高秀. 2020. 東日本大震災後に造成された海岸防災林生育基盤盛土上に出現した植物相と植生. *保全生態学研究* 25: 249–263.

山ノ内崇志・曲淵詩織・黒沢高秀. 2020. 東北地方太平洋沖地震・津波後の海岸林復旧事業地に成立した植生の 3 年間の変化. *植生学会誌* 37: 109–116.

黒沢高秀・阿部武・山ノ内崇志. 2021. 田口亮男資料に基づく 1888 年噴火後の磐梯山北側斜面およびその周辺の植生景観の推定. *福島大学地域創造* 32(2): 215–232.

\*田中千尋・首藤光太郎・矢野興一. 2021. 岡山県瀬戸内市前島で見出されたキク科センダングサ属植物. *Naturalistae* 25: 15–21.

\*Fukuda, T. 2021. Morphology, chromosome numbers and growth condition of *Micranthes fusca* (Maxim.) S.Akiyama et H.Ohba (Saxifragaceae). *Bulletin of the College of Liberal Arts and Sciences, Mie University* (3): 13–23.

大学貴重資料に関する記事や報道

以下に 2020 年 4 月 1 日 -2021 年 3 月 31 日

の間に発表された資料研究所の活動や研究メンバーが管理する貴重資料に関する解説記事や報道の一覧を示す。

「植物標本 壊さず DNA 抽出 科博と福島大、新手法を開発 / 溶液のせるだけ 短時間・低コスト / 日本の「絶滅」種 実は外来種だった / 研究加速で意外な例増えるかも」(朝日新聞, 2020 年 5 月 14 日版)

「被災標本 救いたい 福島大学」(読売新聞福島県版, 2020 年 11 月 26 日版)

引用文献

黒沢高秀・蓮沼憲二・兼子伸吾・田中伸幸・早坂英介. 2015. イワキアブラガヤおよび近縁の帰化種セフリアブラガヤ(カヤツリグサ科)の国内の分布と由来. *分類* 15: 29–40.

Satoh, K., Shutoh, S., Kurosawa, T., Hayasaka, E. & Kaneko, S.. 2018. Genetic analysis of Japanese and American specimens of *Scirpus hattorianus* suggests its introduction from North America. *Journal of Plant Research* 131: 91–97. doi:10.1007/s10265-017-0976-7

Sugita, N., Ebihara, A., Hosoya, T., Jinbo, U., Kaneko, S., Kurosawa, T., Nakae, M. & Yukawa, T. 2020. Non-destructive DNA extraction from herbarium specimens: a method particularly suitable for plants with small and fragile leaves. *Journal of Plant Research* 133: 333–341.

安田晶子・前田哲弥・金重雅彦. 2021. 令和 2 年 7 月豪雨による水損植物標本の救済活動. 熊本県博物館ネット・ワークセンター紀要 (1): 59-70.